

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：1月11日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組
《12月のおはなし会で使った本》

『クリスマスにはおくりもの』 五味太郎/作 絵本館 1980

『がんばれサンタさん』 あかいしゆみ/作・絵 教育画劇 2021

『もちつきくん』（大型絵本） 中川ひろたか/作 長野ヒデ子/絵 チャイルド本社 2007

『おひさま、あけましておめでとう！』 すとうあさえ/脚本 中谷靖彦/絵 童心社 2013

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【お知らせ】

システム更新に伴い、1月のセンターニュースの発行は2月上旬となります。

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本－乳幼児から＞

『たことさる』 新井洋行/著 佼成出版社 2021.11 ¥1200

「たこ」と「さる」で…「たる」。「いぬ」と「りす」で…「いす」。「あり」と「かめ」で…「あめ」。じゃあ、「だちょう」と「らっこ」では…？言葉のあたまとおしりをくっつけて、違う言葉をつくってみよう。絵本にでてくる言葉以外にも自分で言葉を見つけてくっつけてみるのも面白いね！かわい動物の絵といっしょに、親子で言葉遊びを楽しめる赤ちゃん絵本。

＜絵本－3, 4歳から＞

『よくみると…』 shimizu/作・絵 学研プラス 2021.9 ¥1300

美味しそうないちごのショートケーキ？おや？よくみると…ねこ！お次はクリームソーダ？おや？よくみると…しろくまとかえる！他にもオムライス、アボカド、レモン、めだまやき、チューリップ…。食べ物やお花がいっぱいでくるけれど、近づいてみると…何のどうぶつ？よくみると、ひとつだけ違う一匹がいるよ。ひとつくせあるイラストが笑いを誘う、楽しい絵探し絵本。

＜絵本－5, 6歳から＞

『えきべんとふうけい』 マメイケダ/作 あかね書房 2021.10 ¥1400

ぼくは魚のしょうゆ差し。駅弁を買って電車に乗る人を見ていたら、ぼくも乗りたくなった。「パッチン！」割箸を割る音がする方へ行ってみると「わっちキンべんとうだ！」さらに電車にゆられて行くと「ガサゴソ…パッチン！」今度はどんなお弁当？裏返しには、「ぼくのたびきろく」として電車を通った軌跡と駅弁名、窓からみた風景を記録。旅に出たくなる美味しい楽しい絵本。

＜絵本－小学校低学年から＞

『あかいてぶくろ』 林木林/文 岡田千晶/絵 小峰書店 2021.10 ¥1600

女の子のお気に入りの赤いてぶくろ。手をふっくり包み、小さな手が冷たくないよう雪の玉を作る時も女の子を手伝った。ある日女の子は、森で右のてぶくろをなくしてしまう。こうさぎの帽子になったり、のねずみのふとんになったりするうちにすっかりほころび形が変わってしまい…。右左のてぶくろそれぞれの思いが描かれ、動物たちのエピソードにも心がまんわり温かくなる絵本。

『まっくろ』 高崎卓馬/作 黒井健/絵 講談社 2021.9 ¥1600

「みんなのこころにうかんだことをかいてみましょう」という授業で先生の目がまるくなった。男の子が画用紙をまっくろにしていたから。学校が終わっても家に帰っても、男の子は画用紙をまっくろにし続けた。大人も友だちもみんな心配顔。でも男の子が画用紙を並べはじめると…。2001年～2002年放送のCMを絵本化。想像力と見守ることの大切さについて考えさせられる絵本。

＜絵本－小学校中学年から＞

『黄色い星 ユダヤ人を守った国王とデンマークの人たちの物語』 カーメン・アグラ・ディーディ/文 ヘンリー・ソレンセン/絵 那須田淳/訳 BL出版 2021.11 ¥1600

第二次世界大戦の頃、ヨーロッパではナチスドイツの勢力が増し、デンマークでも人々に暗い影を落としていた。「ユダヤ人は全員黄色い星をつけなければならぬ」というナチスからの命令が下ったとき、デンマーク国王クリスチャン10世が、国民を守るためにしたこととは…。人々に愛され、伝説として語り継がれる勇敢で優しい国王のエピソードを美しい絵と共に描く。

＜絵本－小学校高学年から＞

『ためぎ』 いせひでこ/著 平凡社 2021.11 ¥1600

2011年の春、庭に現れたためぎの一家。絵描きである家主が3月11日以来つけていた地震日記は、庭の観察日記「ためぎ」になっていく。愛らしい子だめぎのモフモフとした毛並み、木々や草花の色のグラデーションが、やわらかなタッチの水彩画で美しく儚く描かれる。産み、育てるという命の絆の物語は、やがて別れと旅立ちへ…。「生きる」を絵にしたいと思った作者渾身の作。

＜絵本－中学生から＞

『3人のピピと3つのはなはば』 クク・チスン/作 斎藤真理子/訳 ブロンズ新社 2021.10 ¥1400

OK宅配のキム運転手、トゥントゥン小児科のキム先生、タンタン建設のキム課長、寒い中、いつものように仕事に追われる3人。

いつもと違うのは、3人とも休憩時間に花束を買ったこと。でも仕事はなかなか終わらない。仕事が終わった3人が急いで駆け付けたのは…。頑張るパパとその家族を描く、韓国発の心温まる絵本。前作『3人のママと3つのおべんとう』と併せて読みたい。

<読み物—小学校低学年から>

『おやすみこりす』 虹山つるみ/さく 松山円香/え ポプラ社 2021.11 ¥1300

一人暮らしのおばあちゃんへくるみを届けた子りすのフウ。おばあちゃんが一緒に歌を歌おうと誘ってくれたのに、弟に歌のことでからかわれたことを思い出し躊躇して歌わなかった。その翌日、おばあちゃんは急に亡くなる。最後のお願いを聞くことができなかったことを後悔するフウ。亡くなっていく人とお別れを考えさせる物語。歌の楽譜付き。作者は光市出身、広島県在住。

<読み物—小学校中学年から>

『レッツキャンプ』 いたうみく/作 酒井以/絵 佼成出版社 2021.10 ¥1300

母さんの再婚相手とキャンプに出掛けた小4のぼく。二人の距離を縮めようって魂胆だらうけど、食材にしたい川魚は稚魚1匹しか釣れず、米を炊けば焦がしてしまう始末。いやな予感はあるけど。近くでテントを張っている父子は、あんなに楽しそうに過ごしてるのに。だけど話してみればあちらも色々事情があるようで…。新しい家族を迎えることになった二人の少年の物語。

<読み物—小学校高学年から>

『赤い糸でむすばれた姉妹』 キャロル・アントワネット・ピーコック/作 日当陽子/訳 フレーベル館 2021.10 ¥1400

中国の養護施設で姉妹のように育ったウエンとシューリン。ウエンは国際養子縁組で渡米したが養子縁組の話が進まないシューリンのことが気になってしかたない。シューリンには縁組可能な年齢制限が迫っていた。ウエンは「目に見えない赤い糸が運命の人とつながっている」という中国の伝説の言葉を信じ、シューリンの養父母探しに奔走する。家族の愛を求める少女を描いたお話。

<読み物—中学生から>

『境界のポラリス』 中島空/著 講談社 2021.10 ¥1400

わたしは高校1年生。「吉田恵子」という名前でも高校に通い、流暢な日本語を話しているが、上海出身。中国出身と言わずに学校生活を送っている。ある日、店で男に絡まれていたのを助けてくれた大学院生に誘われて、公民館の夜間中学へ。そこで、外国籍の子どもたちに日本語を教えることになり…。自分の存在について考えさせられる作品。第61回講談社児童文学新人賞佳作。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『おやこで話す子どもの貧困 だれも見ずてない国をつくる』 阿部彩/著 斉藤みお/イラスト 日本能率協会マネジメントセンター 2021.11 ¥1500

ニュースでよく聞く「ひんこん」。お母さんはそういうニュースが流れる時、急いでテレビを消したり他の話をしたり。大人は子どもに知られたくないみたい。子どもも聞いたらいけないのかな？小1のまりかと、お母さんの会話によって、貧困についての理解を深める本。大人が子どもにどのように説明すればよいのかを記した、別冊「おとなのための解説書」つき。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『マンガでわかる!はじめてのSDGs 図鑑』 蟹江憲史/監修 永岡書店 2021.10 ¥1400

SDGsの17の目標に関わる身近な事案をマンガで紹介しクイズで理解を深めていく、SDGsを楽しく学べる入門書。部屋の電気を消すことは目標7と13、ごみを分別して捨てることは目標12.14.15など、SDGs達成に向けて日常の中でできる具体的な取り組みを分かりやすく紹介する。自分たちの生活を振り返る書き込み欄や、おさらいチェック欄あり。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『海の中から地球を考える プロダイバーが伝える気候危機』 武本匡弘/著 汐文社 2021.11 ¥1600

プラスチックごみだらけの海。姿を消したサンゴ礁や海藻の森。産卵した砂地の温度で、雌雄が決まるウミガメは、99%がメスになってしまう？今、海に何が起きているか、その原因は何で、地球にどんな影響があるのか。40年以上国内外の海に潜り、変わりゆく海を目撃してきたダイバーが伝える、気候危機を訴える本。上関・祝島の海の豊かさに触れた内容もあり。

<ノンフィクション—中学生から>

『わくわく!納得!手話トーク』 松岡和美/著 高野乃子/マンガ くろしお出版 2021.10 ¥1200

言語の専門家(聴者)とろう者が家族にいるマンガ家(聴者)が協力して作った手話の本。手話について8つのトピックに分け、コミュニケーション言語のひとつとしての手話について解説。トピックごとの導入部として、初心者聴者のミミちゃんと龍のロンくんのやり取りが描かれたマンガが分かりやすい。巻末には参考文献と、おすすめウェブサイトの一覧あり。

『生きるって、なに?死ぬって、なに? 12歳から考える 答えはないけど、大事なこと。』 東京書店 2021.10 ¥1500

「生きること」「生と死」「命」。どこにも答えはないけれど、確かめることも難しい問題に対して、10人の著名人から思春期の子どもたちへのメッセージを収録。落ち込んでしまったとき、生きることに疑問を抱いたとき、大切な人を失ってしまったとき…。前向きに生きていく手助けをしてくれる1冊。巻末に「なやみを聞いてくれる相談先」リストを掲載。

<研究書>

『光吉夏弥 戦後絵本の源流』 澤田精一/著 岩波書店 2021.10 ¥2200

絵本シリーズ「岩波の子どもの本」の刊行にたずさわった光吉夏弥は、膨大な量の図書を残してはいるが、自身についての記述をほとんど残していない。本書は、光吉の晩年の連載「子どもの本の世界から」の編集担当者だった著者が、発掘した資料をもとに、児童文学だけでなく、舞踊や写真に関する業績についても述べた初の評伝。カバーには関連図書の書影が、巻末には各年譜あり。

『星に絵本を繋ぐ』 井上奈奈/著 雷鳥社 2021.10 ¥2000

絵本作家である著者が、絵本制作について細かな点まで丁寧に解説。第1章ではこれまでに出版した絵本の制作過程を、第2章では絵本制作の心得を、第3章では自身が主催した絵本制作のワークショップの様子を紹介。葉の付け方まで筆者のこだわりが見える製本。2018年「世界で最も美しい本コンクール」銀賞受賞の『くままでのおさらい』特装版制作過程の掲載あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館の運用を行っています。利用案内はこちらから→
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

